

学術講演会プログラム

10月11日

Session 1 (座長： 羽田麻美・山田努)

13:10-13:30 O-1： 北海道伊達市大滝区百疊敷洞窟における氷筈の成長・融解過程、大滝の気温データを用いた氷筈の成長予測および洞窟内の湧水の化学成分
亀田貴雄・佐藤夏巳・牛塚貴博（北見工業大学）、酒井史明（PACIFICA）、橋本強志（無所属）、駒井克昭（北見工業大学）

13:30-13:50 O-2： スカラップ形態の数値化と古流速の見積もり
石原与四郎（福岡大学理学部）

13:50-14:10 O-3： 沖縄県・玉泉洞の洞窟微気象と石筈成長速度
石原与四郎・松地遼太郎（福岡大学理学部）・大岡素平（おきなわワールド）

14:10-14:30 O-4： 埋没化石骨フッ素濃度と化石骨周辺の地下水流动
吉村和久（九大 RI センター）・渡辺修（（同）水文企画）

14:30-14:50 O-5： 与論島における溶食凹地の形状と断層との関係
桑原香澄（全農 長崎県本部）・羽田麻美（琉球大）

14:50-15:10 休憩

Session 2 (座長： 多武想太・横田角光)

15:10-15:30 O-6： 大流速湧水におけるロボット探査について

眞部広紀・長嶋豊（佐世保高専）・堀井樹・バルデスラジャン（（株）Aero Flex）・高嶋洋（第一工科大）

15:30-15:50 O-7：穴の原溶岩洞穴における3D測量と洞口周辺の物理探査

眞部広紀（佐世保高専）・藤井雄基（岡山大大学院）・堀井樹（（株）Aero Flex）・城森明（（有）ネオサイエンス）

15:50-16:10 O-8：洞窟探査ロボット開発における要素技術とその一般化について
堀井樹（（株）AeroFlex）・眞部広紀（佐世保高専）

16:10-16:30 O-9：ウズベキスタン極西ギッサール洞窟探検偵察行報告
小林知風（法政大学探検部、東京スペレオクラブ）・富澤りの（法政大学探検部、東京スペレオクラブ）・嘉川寛大（法政大学探検部）

16:30-16:50 O-10：インドネシアハルマヘラ島における新洞報告
久保結花・縣智丈・岡晃子・荒木浩介・菅原真美（J.E.T（Japan Exploration Team）・山本健太朗（無所属）

16:50-17:10 O-11：日本の豎穴技術の歴史～今、ラダーは生きているのか
水島明夫（洞穴科学調査会）・多武想太（東京スペレオクラブ）

10月12日

Poster Session

12:30-13:30 P-1：鷹丸尾溶岩流柏原樹型群にみる溶岩再溶融温度の推定
本多力（NPO 法人火山洞窟学会）

P-2： 米国カスケード山系セントヘレンズ火山、ニューベリー火山の溶岩チューブ

洞窟形状による溶岩流の温度、粘性係数の推定

本多力(NPO 法人火山洞窟学会)

P-3： 岩手県久慈市で発見した氷結誘導型洞穴成炭酸塩鉱物

山田努（東北大・院・理）

Session 3 (座長： 新部一太郎)

13:30-13:50 O-12： LGM 以降のユビナガコウモリの分布変遷を辿る

秋山礼・兼祐翔・後藤晋・福井大（東京大学大学院農学生命科学研究科）

13:50-14:10 O-13： 複合的手法による北海道の海蝕洞の記載と測量

伊藤雄氣（北大探検部・東京スペレオクラブ・北大・院・理）・赤嶺直弥・工藤隆太郎・阿部泰地・小倉彬嵩・青木銀・木嶋理乃・神藏未和・橋本育和・石黒竣太・菅真太郎（北大探検部）

14:10-14:30 O-14： 洞窟活動における横紋筋融解症

長谷川幸祐（荏原ホームケアクリニック、NPO 法人火山洞窟学会）・長谷川春日（NPO 法人火山洞窟学会）

14:30-14:50 O-15： OnStation の Windows10/11 対応と導入支援

藤井雄基（うきぐもケイビングクラブ）

14:50-15:10 O-16： 洞窟地震学（Speleoseismology）の現状と日本における適用可能性

山田努（東北大・院・理）

15:10-15:30 休憩

Session 4 (座長： 石原与四郎)

15:30-15:50 O-17： 自然に関する知の共有と保存のための中核施設：博物館および博物展示施設について

太田泰弘（北九州市立自然史・歴史博物館）

15:50-16:10 O-18： 玉泉洞におけるケイビングツアー－39年間の変遷－
大岡素平（株式会社南都）

16:10-16:30 O-19： 秋吉台におけるケイビング活動の法的手続き－現状と課題－
藤川将之（秋吉台科学博物館）

16:30-16:50 O-20： 山口大学洞穴研究会 65年の軌跡と今後の展望
横田角光（山口ケイビングクラブ、帰水会）